

### 義認:キリストにある戦と自由

OIC の皆さん、お早うございます。

2024 年 1 月 1 日、主は日本の大地を揺らした。多くの地震と余震があり、多くの県が被災した。そこで、ローマ人への手紙のメッセージの前に、イエスが私にいくつかのことを伝えてくださった。

1. 数カ月前にローマ人への手紙 1 章を説教したように、全人類の罪に対して怒りを示される神は、新年を日本に対する怒りで始められた。この新しい年が祝福に満ちたものになるか、怒りに満ちたものになるかを日本人に知らせるために、元旦を選ばれた。

次のパラグラフは、水曜の夜の聖書研究会のメンバーのコメントから始まった：日本では 1 月 1 日は 1 年で最も大きく、最も幸せな日です。

その日、地震で苦しんでいる人々のために祈った私たちは、神が人間の苦しみを喜ばれないことを悟らなければならない。しかし、生きている人々、特に神の存在さえ信じていない人々の注意を引くためには、神の怒りを示さなければならない！元旦は、来年の計画や新年の抱負を立てる日である。地震は、人々が仕事の義務に急いで戻り、そのような出来事の巨大なパワーと痛みをすぐに忘れようとする普通の仕事の日々によく起こることだ。神はこの震災のために休日、家族の休日を選んだ。日本の人々は仕事から離れ、静まり、この震災の「誰が」「なぜ」について考えることができた。神は人々の注意をもっと……いや、最も重要な事柄に向けさせようとしているのだ。あなたの 2024 年の計画に神はいるだろうか？

日本の最大の罪は、地球上のどの国でもそうであるように、その方を知ることは命であるが、その唯一の真の方法である御子を拒むことである。神は罪人に対する愛の心から怒りをあらわにされる……元旦の警告は、目覚めよと宣言している……今年も……今も。

2. イエスはヘブル 12:25-27 を、聖人を励まし、罪人や生ぬるいクリスチャンを恐れさせる聖句として、私に与えてくださった。

ヘブル 12:25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかつたとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありません。

26 あのとときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。

「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」 27 この「もう一度」ということは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

3. 私たちイエスに従う者は、信仰を守るなら「揺らぐことのないもの」である。なぜなら、私たちは聖霊によって生まれ、創造され、そして再び創造され、イエスへの信仰によって生まれ変わったからである。そして（ローマ 8 : 38 - 39）で、 38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、 39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん.....誰かが、あるいは何かが、私たちの神と救い主を破壊するまで、私たちは安全である。主の愛は決して失敗しない。

本日の主イエスからのメッセージの序章を TAKEAWAY#1 とする。

さて、ローマ人への手紙からのメッセージである： 義認： キリストにおける戦いと自由  
私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。ローマ 7.24 のこのコメントは、勝利したクリスチャンの言葉には聞こえない！そうだろうか？しかし、これは使徒パウロの言葉なのだ。復活し、栄光を受けた主を見て、新しく生まれ変わった人だ。使徒の働き 9 章 3 - 6 節の記録によると 3 ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。5 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。6 立ち上がって、町にはいりなさい。そうすれば、あなたのしなければならないことが告げられるはずです。」

そして、私が 2023 年 12 月 10 日の説教で説いたように、イエスに思いを尽くし、力の限りを尽くして完全に服従することを望むすべてのクリスチャンは、神の愛の奴隷である：

クリスチャンは、神のために戦う価値のある“愛の奴隷”なのだ： それは、イエスに近い地上での生活と、永遠の天国への栄光の入り口である。使徒パウロは、イエスとの関係をこのように表現した。ローマ 6.22 にあるように、しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。では、どうしてパウロは（ローマ 7.24）で、この一見絶望的なことを言うことができたのだろうか。

この聖句に至るまでの聖句の意味を釈明しながら、パウロがこのことをどのように説明しているのかを見ていこうと思う。

ローマ書 6 章 22 節から 7 章 4 節までお読みする。 **6. 22** しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。 **23** 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。 **7. 1** それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。——私は律法を知っている人々に言っているのです。—— **2** 夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。 **3** ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとえ他の男に行っても、姦淫の女ではありません。 **4** 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

(ローマ 6. 22-23) クリスチャンは罪から解放され、死と言う支払いからも解放されると教えている！ (22 節) パウロはまた、一行で「すでにあり、しかしまだである」と述べている。

今の聖なる生活の利点や報酬は、クリスチャンの栄光、天国への永遠の命への歩みにおけるテストや試練の間に、簡単に忘れられてしまうことがある。

そして (ローマ 7. 1) で、パウロはユダヤ人の読者、つまり律法を知っている人々に焦点を当てる。パウロは、1 世紀当時のユダヤ教の掟の下での結婚と、キリストにあるゆえに掟から解放された自由との、力強く感情的な比較を提示する。彼はこれを、妻の立場から、あるいは妻の側から行っている。簡単に言えば、夫が死ねば、再婚で性的な喜びを味わう自由が得られるということだ。夫が生きていれば姦通となり、旧約聖書では死刑となる。

レビ記 20 章 10 節で、人がもし、他人の妻と姦通するなら、すなわちその隣人の妻と姦通するなら、姦通した男も女も必ず殺されなければならない。聖霊の息吹を受けたパウロの言葉は、罪の報酬、姦淫の報酬とも重なる。

(ローマ 7 : 4) 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

パウロを通した神の知恵は、キリストにおける自由というパズルの点と点を、男女間の結婚という霊的な激しさと神秘と見事に結びつけている。生まれ変わったユダヤ人は、以前は律法と結婚していたが、生まれ変わると、新しい配偶者であるイエスとの関係になる。このユダヤ人は、キリストの [十字架につけられた] 体を通して律法に対する死を受けたので、律法を与えた神との姦淫者ではない。つまり、ユダヤ人クリスチャンは、例えるなら、夫の死によって自由になった未亡人のようになるのだ。

それ以上に、やもめの再婚のように、イエスを信じることで、クリスチャンには新しい夫が与えられる。

聖書には、神が最も神秘的な創造のひとつである男女の魅力と、結婚につながるように神が創造された内なる欲望について、恥ずかしがらずに語っておられることが記されている。

エペソ人への手紙 5 章 30 - 32 節に見ることができる。私たちはキリストのからだの部分だからです。 **31** 「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」 **32** この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

クリスチャンは今や、死者の中からよみがえられた方という別の方に属している。このように、クリスチャンは、夫婦が結婚を終えて一体となるように、神秘的な形でキリストの体の一員となるのである。もはや律法はクリスチャンの夫でも配偶者でもない。イエスを信じる私たちがイエスとつながっていることを知ることは、私たちが罪や律法のどちらかを主であり、主人であることを選ぶことに逆戻りしないことを保証してくれる。

しかし、使徒が（ローマ 7. 23）で解放を求めて必死に叫んだのはなぜか、とあなたは尋ねるかもしれない。

ローマ 7 章 5 - 6 節に行きましょう。 **5** 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。 **6** しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

5 節で、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。これは、テーブルの上の大きな壺に、食べてはいけないおいしいクッキーが入っていると子供に言うようなものだ。子供の頭の中では、その瓶は刻一刻と大きくなっていく。（6 節）律法から解き放たれ、もはや律法と結婚していないクリスチャンは、一定の規則によって生きることから解放される！悲しいことに、多くのクリスチャンが「律法」に代わる新しい「規則」を作り上げていると言わざるを得ない。これはキリストにおける自由ではない。この確認を 6 節でみることが出来る。しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。御霊の促しへの服従 ですから今、私たちは、文書による古い掟に【従う】のではなく、御霊の促しに【従う】ことによって、新しい【いのち】をもって仕えているのです。

私が尊敬していたある伝道的な牧師が、私の師、あるいはメンター、あるいは先生としての尊敬の念を奪い去った日のことは忘れられない。

彼は一日の終わりに、十戒のどれも破らなかったので、いい一日だったと感じたと話した。これはキリストにおける自由ではない。

神の御霊は私たちの内側に住んでいる。なぜ聖霊を神の掟や人間が作った規則で置き換えるのか。ここではっきりさせておきたいのは、クリスチャンとして特定の行動習慣を身につけることは、聖霊を規則で置き換えることではないということだ。これらの行動習慣は、キリストにあつて成熟するにつれて徐々に形成されていくものである。多くの場合、私たちが意識することなく、内在する神の御霊がそれを行っているのだ。ある聖書学院で、ある先生が私たち学生にこう言ったことを思い出す：「キリスト教的な生活哲学を身につけないと、騙されますよ。（説得力のある話術にだまされる）。私の好きな賛美歌のひとつにこうある：「主の律法は愛であり、主の福音は平和である。

ローマ書7章7節を読みましょう。それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。

神は律法を、何世紀にもわたってユダヤ民族の子供たちを学校に連れて行くスクールバスのようなもので、最も偉大な教師である真理ご自身がおられる学校に到達するように意図されていた。それはメシアであるイエスのところである。パウロは、律法は善であり、人間は生まれつき悪であると明言している。律法はすべての人に救い主の必要性を教えるためのものだ。私たちはこの正しい生き方をして律法を守ることはできない。

次の8-11節：

**8** しかし、罪はこの戒めによって機会を捕え、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

**9** 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。

**10** それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。

**11** それは、戒めによって機会を捕えた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。

これらの節は、罪人が救い主を求めるためには、自分の罪の現実を悟らなければならないことを教えている。ユダヤ人にとって、それは律法を完全に守れなかったことだ。だから、律法（異邦人の罪人にとっては、善と悪の知識）が私を殺した。罪人の独善はそう殺される。すべての人は、ある種の内的な価値感や善良さを必要としている。それは、すべての人が神に似せて造られているからだ。創世記1章27節で、神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

パウロは、自分の罪深い性質としての確信が律法よりも強く、罪が“彼を殺した”と言っている。それゆえ、（12節）律法は聖なるものであり、（それぞれの）戒めは聖く、正しく、良いものである。

13 では、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪なのです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。

このように、自分を“善良な”人間だと思い込んでいる人にとって、衝撃的な現実が待っている。パウロが語る深い思いは、アメリカ流に言えば、自分がいかに「芯まで腐った」悪いリンゴのような人間であるかを示している。旧約聖書のエレミヤ書 17 章 9 節で預言者が語ったように、人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。The Amplified Bible のローマ 7 章 3 節にあるように、医学知識の発達した現代では、癌のようなものだ。このことは、罪が私たち全員を殺したが、神に賛美あれ、私たちの罪は私たちの愛する救い主をも殺したということを理解する助けとなる！だから今、私たちは律法からも罪からも自由なのである。二つの性質の戦いが、今、パウロによって詳述されている。

さて、パウロが自らを惨めな者と呼ばせる古い罪の性質との戦いについて、パウロがどこへ向かおうとしているのかが見えてきた。（ローマ 7. 4）において、パウロはまだキリスト以前の戦いについて論じているのかもしれない。律法は彼に罪の性質を意識させ、父アブラハムの霊的な子であるユダヤ人としての平安を失わせた。

14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。

15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。

パウロの道徳的直感、宗教哲学は、旧約聖書の信仰者たちの記録から得たものである：アブラハム、イサク、ヤコブ、ダビデ王、預言者たちである。

16-17 節を読みましょうもし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。

この最後の 2 節は、パウロが生まれながらのユダヤ人、あるいは異邦人の罪との戦い、すなわち「二つの性質」について述べていることを明らかにしている。独善的なパリサイ人は、自分の中に罪があるとは想像すらできず、罪と戦う必要もなかった。彼は律法、十戒、聖書にあるその他の掟を守っていると自分を欺いていた。彼は人生のある部分や区切りでそうしていたのかもしれない。しかしイエスは、律法の本質ではなく文字を守っているファリサイ派の人々を非難された。（マタイ 23. 23）。

忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、すなわち正義もあわれみも誠

実もおろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、他のほうもおろそかにしてはいけません。

私たちクリスチャンが自分の古い性質と戦うことは、次の2節（ローマ7.17-18）でも説明されている。

17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。

18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

この戦いのポジティブな側面に目を向けることが重要である。何よりもまず、クリスチャンは生まれ変わるときに新しい性質を受けた。この新しい性質は、聖霊によって彼らの中にもたらされた。これは神の性質である

コロサイ1・27/NLT) に書かれているとおりのことである。神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

親愛なるクリスチャンよ、内なる戦いがあるからといって落胆しないでください。キリストにある再誕で受けた新しい性質がなければ、古い性質との戦いはないからです。

パウロはガラテヤ人のクリスチャンに書いている。ガラテヤ人への手紙5章17節で、なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

ブルース牧師、どうしてこのメッセージのタイトルを“自由”としたのですか？あなたは今、“自由でないように”という聖書の一節を読んだばかりではないか。これだけ争っているのに、どうして聖書（ガラテヤ5.1/NIV）に同意できるのでしょうか？キリストは、自由を得させるために、私たちが解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。

先ほどの自分の答えは次のようなものだ。しかし、イエスとともに歩むとき、私たちは、堅く立つことには多くの霊的な働きがあることを学ぶ。私たち自身は、奴隷のくびきかけられやすく、またかけられやすい。そのため、救いの無償の賜物を働かせなければならず、“自由ではない”のである！

私の答えの第二の部分は、新生する前に悪魔に取りつかれたり、サタンに大きく支配されていたクリスチャンに最もよく理解できるものである。

そのような視点や観点からクリスチャンの人生を見ると、「戦う自由」を持つことが本当に自由であることがわかる。

私たちには戦う自由があるだけでなく、私たちの古い性質と悪魔に勝利する約束もある。イエスは真理だからだ。私たちは完全な解放を望み、私たちの内に罪を現し続ける古い性質や、私たちの敵であるサタンから解放される。主の御言葉は、この地上では季節によってこのことが起こるが、天国まで継続することはないと明言している。そう、キリストにある兄弟姉妹よ、神は私たちが神の子となるにつれて成熟していくように、私たちが永遠を踏まえて生きることを常に指し示しておられるのだ。パウロはこう書いている（ローマ 13. 11）。あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

この最終的な解放とは、私たちが罪深い肉体を離れた後の、永続的で輝かしい自由のことである。クリスチャンとしての「神の前での立場」、「キリストにおける正しい立場」を理解することは、霊的な戦いの中で、私たちがどれほど自由であるかを知る助けとなる。数週間前の（ローマ 3・14）を思い出してほしい。

*[すべての人は) キリスト・イエスにおいて [与えられている] 贖いによって、主の恵み (主の無償の好意と憐れみ) によって、自由かつ無償に、義とされ、神との正しい関係に置かれる。*

戦争に満ちた世界では、戦いや戦争が罪だと考えるクリスチャンがあまりにも多い。私たちが “主の味方” であり、私たちの戦いは血肉に対するものではなく、私たちの古い罪深い肉欲に対するものなのだ。もし戦いがなければ、どうして勝利の叫びがあるだろうか？時に、私たちクリスチャンは輝かしい勝利を手にし、一時的に天国にいるように感じることもある。イエスを積極的に十字架につけたユダヤ人たちに約束されたように、神は私たちにリフレッシュの時を約束してくださっている。これは、使徒言行録 3. 17-19 のペテロの説教における神の約束である。： **17** ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行ないをしたのです。 **18** しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。 **19** そういうわけですから、あなたがたの罪をめぐり去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。

## TAKEAWAY#2

戦う自由は本当の自由 パウロはローマの教会に宛てた手紙のこの部分で、新生クリスチャンとして新しい性質を持つことで、私たちは古い性質との内なる戦いに敏感になると教えている。パウロは、私たちが敗北や落胆の中に生きるのではなく、霊的な勝利を勝ち取るために、この現実的でありながら否定的な絵を描いている。古い性質の力を感じ取っているクリスチャンは、サタンに惑わされて、自分が本当に新しく生まれ変わったのではない、神と正しい関係にあるのではないと考えるってしまうかもしれない。その立場は私たち次第ではなく、イエスの十字架によっ

て買い取られた義認次第なのだ。キリストの内住の御霊によって、私たちは明白な勝利の前であっても、大いなるリフレッシュの時を受ける。

さて、復習のために…

#### TAKEAWAY#1

2024年1月1日、主は日本の大地を揺らした。多くの地震と余震があり、多くの県が被災した。そこで、ローマ人への手紙のメッセージの前に、イエスからいくつか分かち合いたいことがある。

1. 数ヶ月前にローマ人への手紙1章を説教したように、全人類の罪に対して怒りをあらわにされる神は、日本への怒りをあらわにして新年を迎えられた。この新しい年が祝福に満ちたものになるか、怒りに満ちたものになるかを日本人に思い知らせるために、元旦を選んだのだ。

次のパラグラフは、水曜の夜の聖書研究会のメンバーのコメントから始まった：日本では1月1日は1年で最も大きく、最も幸せな日である。その日、地震で苦しんでいる人々のために祈った私たちは、神が人間の苦しみを喜ばれないことを悟らなければならない。しかし、生きている人々、特に神の存在さえ信じていない人々の注意を引くためには、神の怒りを示さなければならない！元旦は、来年の計画や新年の抱負を立てる日だ。地震は、人々が仕事の義務に急いで戻り、そのような出来事の巨大なパワーと痛みをすぐに忘れようとする、仕事の日によく起こることだ。神はこの震災のために休日、家族の休日を選んだ。日本の人々は仕事から離れ、瞑想にふけり、この震災の「誰が」「なぜ」について考えることができた。神は人々の注意をもっと……いや、最も重要な事柄に向けさせようとしているのだ。あなたの2024年の計画に神はいるだろうか？

日本の最大の罪は、地球上のどの国でもそうであるように、御子を知る唯一の真の方法である御子を拒むことである。神は罪人に対する愛の心から怒りをあらわにされる……元旦の警告は、目覚めよと宣言している……今年も……今も。

2. イエスはヘブル12:25-27を、聖人を励まし、罪人や生ぬるいクリスチャンを恐れさせる聖句として、私に与えてくださった。

ヘブル12:25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかつたとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。

26 あのとときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。

「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

3. 私たちイエスに従う者は、信仰を守るなら「揺らぐことのないもの」である。なぜなら、私たちは聖霊によって生まれ、創造され、そして再び創造され、イエスへの信仰によって生まれ変わったからである。そしてローマ8章38-39節で、**38** 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、**39** 高さも、深さも、(地震も) そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん..... 誰かが、あるいは何かが、私たちの神と救い主を破壊するまで、私たちは安全である。神の愛は決して失敗しない。

さて、このメッセージを2回に分けなければならない。来週は、主のご意志により、パウロが自らを、イエスの喜びを持ち、聖霊に満たされ、父なる神の良心を持つ者でありながら、惨めな者であると呼んだ意味を、引き続き解釈し、明らかにしたいと思います。このことについて、いわば宙ぶらりんのままにしておくことが、神の生ける御言葉を糧とする飢えをさらにかき立てることを、私は願っている。

さあ、一緒に聖餐式を祝うために心を整えよう。

#### 参考文献

{ } - Pastor Bruce's added notes for clarity

AMPC - Amplified Bible, Classic Edition Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987  
by The Lockman Foundation

KJ21 - 21st Century King James Version (KJ21)

Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NLT - Holy Bible, New Living Translation, copyright © 1996, 2004, 2015 by Tyndale House Foundation. Used by permission of Tyndale House Publishers, Inc., Carol Stream, Illinois 60188.